

奥山廃寺の調査(飛鳥藤原第114-8次)

明日香村にある奥山廃寺の東門改修にともなう事前調査です。東西3.5m×南北2mという小さな調査区ですが、南北に並ぶ金堂と塔の中間部分の東側にあたり、これまでの調査成果から、奈良時代に施された瓦敷きの検出が期待されました。

瓦片と礫がつまった、まさに瓦礫というにふさわしい層を掘り下げると、瓦敷きが顔を出しました。意識的に凸面を上に向けて敷いた比較的大きな平瓦や、ばらまいたと思われる小片があり、その中には長さ38cm、幅25cmをはかる鴟尾の破片もあります。奥山廃寺での鴟尾の出土は初めてです。

この瓦敷きの下層には、7世紀前半の瓦で整地した瓦層があり、瓦敷きを施す前に、比較的大規模な伽藍内建物の改作があったことがうかがえます。

わずかな面積の調査でしたが、実りの秋にふさわしい成果をあげることができました。



奥山廃寺の調査区と塔跡に建つ十三重石塔

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部)